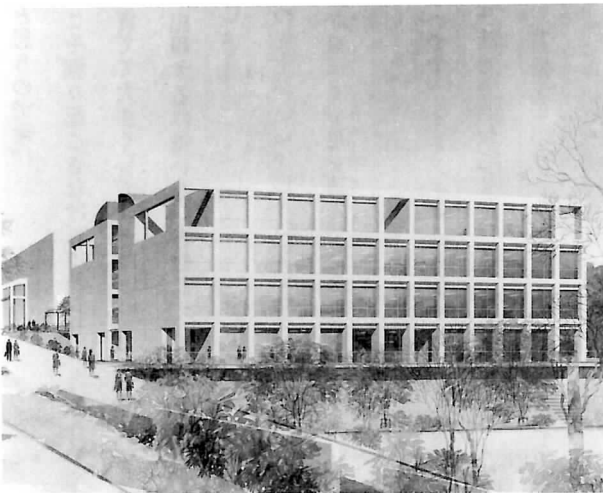


明るい紙面を

——心の温まるような話題で——

申すまでもないことですが、新聞、それは、現代に生きる私達に大きな影響を与えていると思います。私達の、ものの見方や考え方、また、価値観さえも左右する程の力をもっています。だからこそ、私は、毎朝配達されてくる新聞は健康的で明るい紙面であって欲しいと思うのです。

しかし、現代は、人の心を凍らせる悲惨な事件や痛ましい事故の多い社会なのかも知れません。だが、さがせば、この社会にも、明るく健康的な話題も多かるうと思います。利根川進博士のノーベル医学・生理学賞受賞といったビッグニュースも嬉しいのですが、目立たないけれど、心の温まるような話



総合情報館の完成予想図

題もあるはずで、それを掘り起こして、紙面を飾って欲しいと思うのです。

たしかに、善行というものは目立ちません。目立たないからこそ掘り起こさなければならぬと思うのです。もし、それが、平凡で小さな「善」であっても、それを温ため育てて大きくしていきたいのです。何故なら、そこから、ほのぼのとした社会、ひいては、幸福で平和な世界が出現するに違いないと信じているからです。

ここで、一つ、小さな「善」について話題を提供しておきましょう。

比治山学園に女子短大が創設された頃、石橋丑雄という歴史の先生がいらっしやいました。鳥根県の益田に住んでおられましたので、当時の事務局長川崎員登先生は、何回か益田まで足を運んでおられました。これはその頃のお話です。

石橋先生のお宅は、街はずれ、駅から数キロも奥まった山あいです。タクシーに乗らなければとても歩いて行けません。そこで、駅前のタクシーに乗りとうとしたところ、「石橋先生のお宅なら、私のご案内しましょう」とおっしゃる運転手さんがおられます。聞けば、この運転手さん、石橋先生のファンというか尊敬しておられるのです。といいますのは、車から降りるとき、先生は、有難うございましたと挨拶されて深々と頭を下げられるというのです。「益田広しといえども、この私に、こんなに頭を下げて、有難うございました、と礼をいって頂く方は、外にはありません」というのが、この運転手さんの石橋先生尊敬の理由なのです。

お世話になった方に、頭を下げてお礼の挨拶をする、それは、当り前のことで、とり立てて褒める程のことではないかも知れません。しかし、今の世の中は、当たり前のこととして行われない世の中になってきているの

です。権利の主張が前面に出て、感謝するという心情の方がうすれ後退しているのです。タクシーに乗せて頂いても、料金さえ払えば指示した所まで運んでくれるのは当然、という考えが前面にあって、事故がないよう気を配りながら時間内に目的地まで運んで下さったことに対する感謝の気持ちは忘れがちな世の中です。こうした世相の中で、深々と頭を下げて、「有難うございました」とお礼の挨拶をされたことに、あの運転手さんは感動されたのでありましょう。

思うのですが、石橋先生のこの行為は、たしかに、人間として当たり前のことなのです。その当たり前の行為を「善」だとしなければならぬこの世の中を、さて喜ぶべきか悲しむべきか考えさせられますが、しかし、私も、石橋先生のこの小さな「善」を、感動の面持ちでお聞きし、私も、そのようでありたい、と心に深く思ったものでした。

世の中には、心して見れば、このような「善」行為は、私達周辺のあちこちに見い出せようと思うのです。そして、その「善」行為がどんなに小さくとも、それを掘り起こして公にし、褒めたたえたとすれば、必ずや青少年の心に知恵・勇気・節制・正義といった徳が宿り、明るい社会出現の大きな力になると思うのです。

私は、新聞の青少年に与える影響の大きいことを思い、どうぞ、紙面は、健康的で正しく明るい話題で飾って欲しい、と心から念願しているのです。